

東亜建設工業㈱ 正員 清水計雄

1. まえがき

建設現場における業務の合理化は切に望まれているところであるが、その為に現場管理の体系化が必須である。本稿は現場管理体系の内、業務・人・組織の関係を定める基本成果の概要とそこへ至る開発過程を報告するものである。

2. 業務システム

現場で種々の行為が営まれ、その行為の結果として建設工事が遂行される。この行為とは人が時間を消費して何等かの成果を生み出す働きであり、これが“業務”である。即ち業務は企業活動を表示する上で基本となる単位である。

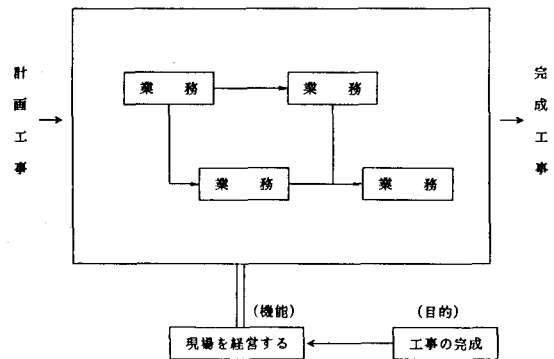
本稿で云う業務システムとは業務及びその相互関係を現場における建設の実行に則して構成したもので、これは狭義の業務システムである(図-1)。広義の業務システムとは狭義の業務システムを中核とし、業務体制・各種の要領・業務管理等との関係を定めたものである。建設現場に於ける広義の業務システムが現場管理体系である。

3. 基本成果

基本成果は業務・資格組織・機能組織及びそれらの相互関係を規定したものである(図-2)。業務は業務プロセス・業務仕様書・単位業務関係表により細かく規定される。業務プロセスは一部の業務間の関係を示し、その業務の処理は業務仕様書に内容を記載する。業務は作業・管理・情報の三つの側面を持ち、側面毎に関係が設定される。

資格組織は業務を処理する責任と権限を持ち、現場業務はこの組織の意志決定に基き遂行される。機能組織は実際に業務を処理する機能を担当する組織である。このように資格組織と機能組織の二種類を考え、それぞれ資格組織図と機能係一覧表として表示した。

図-1 狭義の業務システム

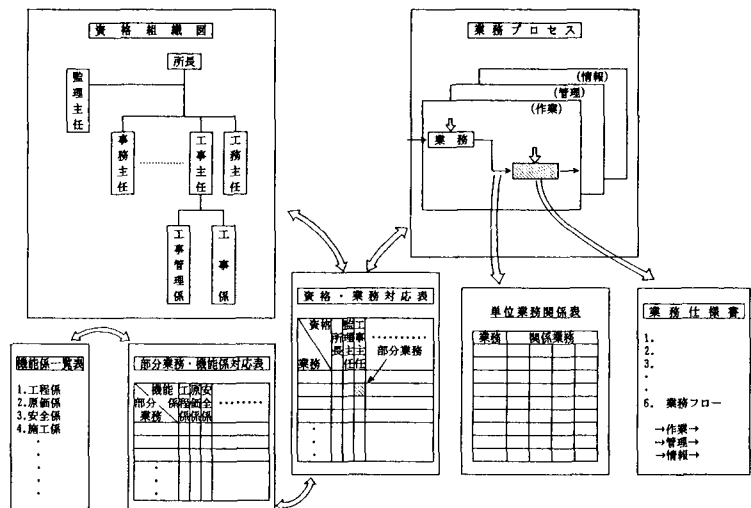


人は組織に配属されて業務の担当が定められる。資格組織と機能組織を同時に兼務することにより能力に応じた効果的な業務処理が期待される。

4. 業務の階層

業務の包括する範囲に応じて区分出来る(表-1)。業務プロセスに表示される業務を“単位業務”と呼ぶ。単位業務は資格組織に対応して“部分業務”に分けられ、部分業務は機能組織に対応して更に詳細業務に分けられる。単位業務は類似の業務にまとめ

図-2 業務システムの基本成果



られ“活動”となり、更に集約されて“基本業務”となる。基本業務は情報システム体系のデータ構造に対応した大分類である。

5. 基本成果の開発過程

開発過程は機能分析・業務の分類・業務の組立・組織の設定に分けられる(図-3)。機能分析では“現場を経営する”という目的に対応して機能展開を行い機能分類図を作成した。業務の分類では機能から抽出した業務を業務分類図にまとめた。業務分類図より単位業務を設定し、資格組織上に業務を展開し、業務フロー図を作成する。業務の詳細な検討を加えた上で、業務と組織の関係及びその内容を基本成果としてとりまとめる(図-4)。

6. あとがき

本研究は建設マネジメント委員会システム開発小委員会内のグループ活動にて行なわれており、現在、業務プロセスを部分的に試行している段階である。最後に、研究に当り有益な助言を頂いた京都大学春名攻助教授に謝意を表します。

参考文献 1) 土木工事のマネジメント問題に関する研究討論会講演資料集 昭和59年 P-189 2) 土木計画学研究講演集 昭和60年 P-485

表-1 業務の階層

業務呼称	分類基軸
基本業務	データ構造 適用業務
活動	論理的関連性
単位業務	基本単位
部分業務	資格組織
詳細業務	部分業務の処理手順

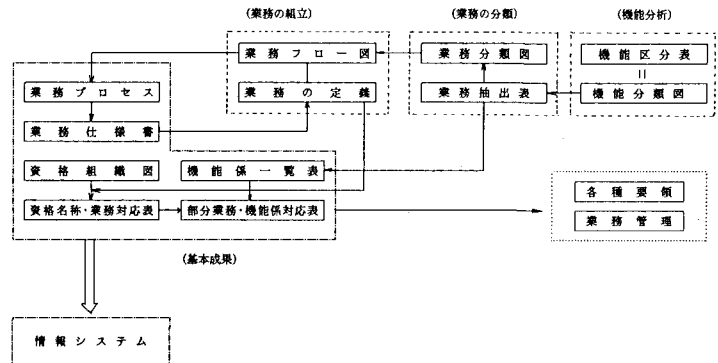


図-3 基本成果の開発過程

図-4 開発過程の成果例

